

Rd.2 Fuji

2019 5.3 予選 4 決勝

日産自動車大学校 SUPER GT レースレポート

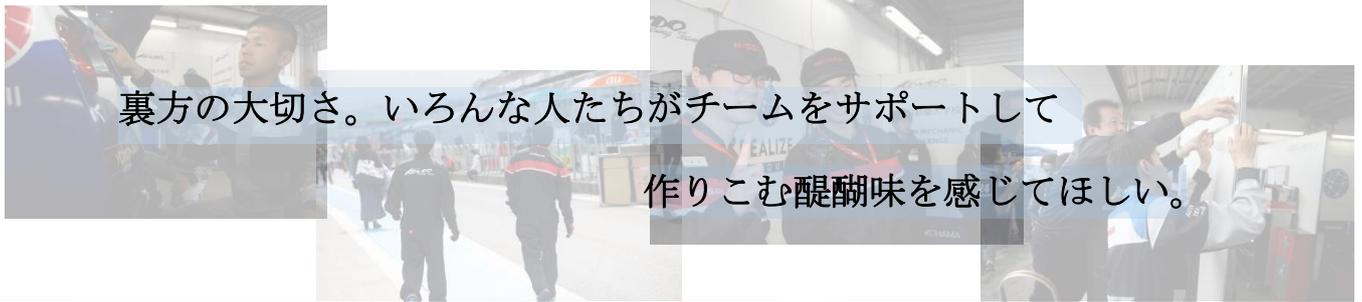


雷鳴轟く令和の幕開け

Rd.2 Fuji 500km

多くのスポンサーにサポートをいただいています。





本廣 好枝 学長インタビュー

モータースポーツは開幕戦の岡山が初めてで、その時、底から湧き上がるようなエンジン音を直接感じ、サーキットの醍醐味だと感じました。さらに、雨が降ったり、天候によってどこが速いか、順位が予想できない。誰もが目指す頂点があって、応援も自然と熱が入ると感じています。

ここ（サーキット）に居ると、ドライバーが走ることは一部でしかなくて裏方の大切さを感じます。ホスピタリティだったりいろんな人が支えて最後に走れる。いろんな人たちがチームをサポートして作りこむ醍醐味を感じてほしい。

社会に出てからも似たようなことはたくさんあって、いろいろ予期せぬことが起こっても臨機応変に対応できる力が身に付く。積極的に参加してもらえれば盛り上がっていて良い結果につながると思います。

Rd.2 Fuji

2019 5.3 予選 4 決勝

ポール・ポジション獲得！

予選 Q1 サッシャ選手、予選 Q2 平峰選手で走る。
Q1 でサッシャ選手は二番手の好タイムで平峰選手に繋いだ。
平峰選手は、それに応えるように二位以下に約 0.3 秒の差をつけるスーパーラップで
ポールポジションを獲得し、富士で最速を証明した。



Q2進出を喜ぶサッシャ選手と平峰選手



ポールポジションの喜びを分かち合うピット内



ポールポジション直後のインタビュー！

ポールポジション獲得直後に近藤監督、平峰選手、サッシャ選手へのインタビューを行った。近藤監督は、このポールポジションに感銘を受けていた様子で、私たちのインタビューでも終始にこやかな表情だった。

近藤監督 「レースは、ドライバーの技術やエンジン・タイヤなどの部品、さらに人の力が揃って、一つのパッケージとして出来上がる。全てにおいて良いパッケージを揃えることができ、すごくポテンシャルが良く、でき過ぎなくらいだった。一つでも相性が悪ければこの結果を出すことができなかった。」

近藤監督とは対照的に、ドライバーの二人はこのポールポジションに対して冷静にインタビューに応じてくれた。

サッシャ選手 「ポールポジションでも長いレース気が抜けない。他のチームがどんな作戦するかわからないので自分たちも最後まで気を抜かずにレースをしたい。」

平峰選手 「一番必要になるのは安定した走りをする。タイヤマネジメントをすることで一定のラップタイムを刻むこと。表彰台のチャンスもあるのでそこも目指したい」と110周の長い決勝レースを警戒している様子だった。

Rd.2 Fuji

2019 5.3 予選 4 決勝

シリーズランキング 3 位浮上

決勝レースは雷雨での幕開けとなる。ポールポジションの56号車は、同じGT-Rの11号車にパスされ順位を一つ下げるが、3位以下に差をつける快走を見せる。

13ラップ、雨はさらに強くなり赤旗レース中断。ここまでのマージンを失う。



激しい雨で水しぶきも増え、路面にはライトの反射が見える



スーパーGTの厳しさを体感した一戦だった。しかし、ポイントを獲得しシリーズランキングは3位となった。ポイントを獲得した分、次戦からは、ウェイトハンデが重くなり、より一層厳しい戦いとなる。しかし、優勝争いも大いに視野に入るポジションだ。

Pos.	No	machine	Gap
1	11	GAINER TANAX GT-R	104
2	55	ARTA NSX GT3	0.239
3	88	マネ° ランボルギーニ GT3	4.376
4	56	リアライズ 日産自動車大学校 GT-R	6.907
5	65	LEON PYRANID AMG	103

順位は下がったが3位以下にリードを作る



レース再開後、多少の順位変動はあったものの順調にレースを進めていく。

3位で迎えた最終局面、56号車の背後には昨年まで平峰選手のドライブした88号車の姿があった。

想定以上に大きく下がった路面温度の中、56号車に順位を守り切る力は残っていなかった。

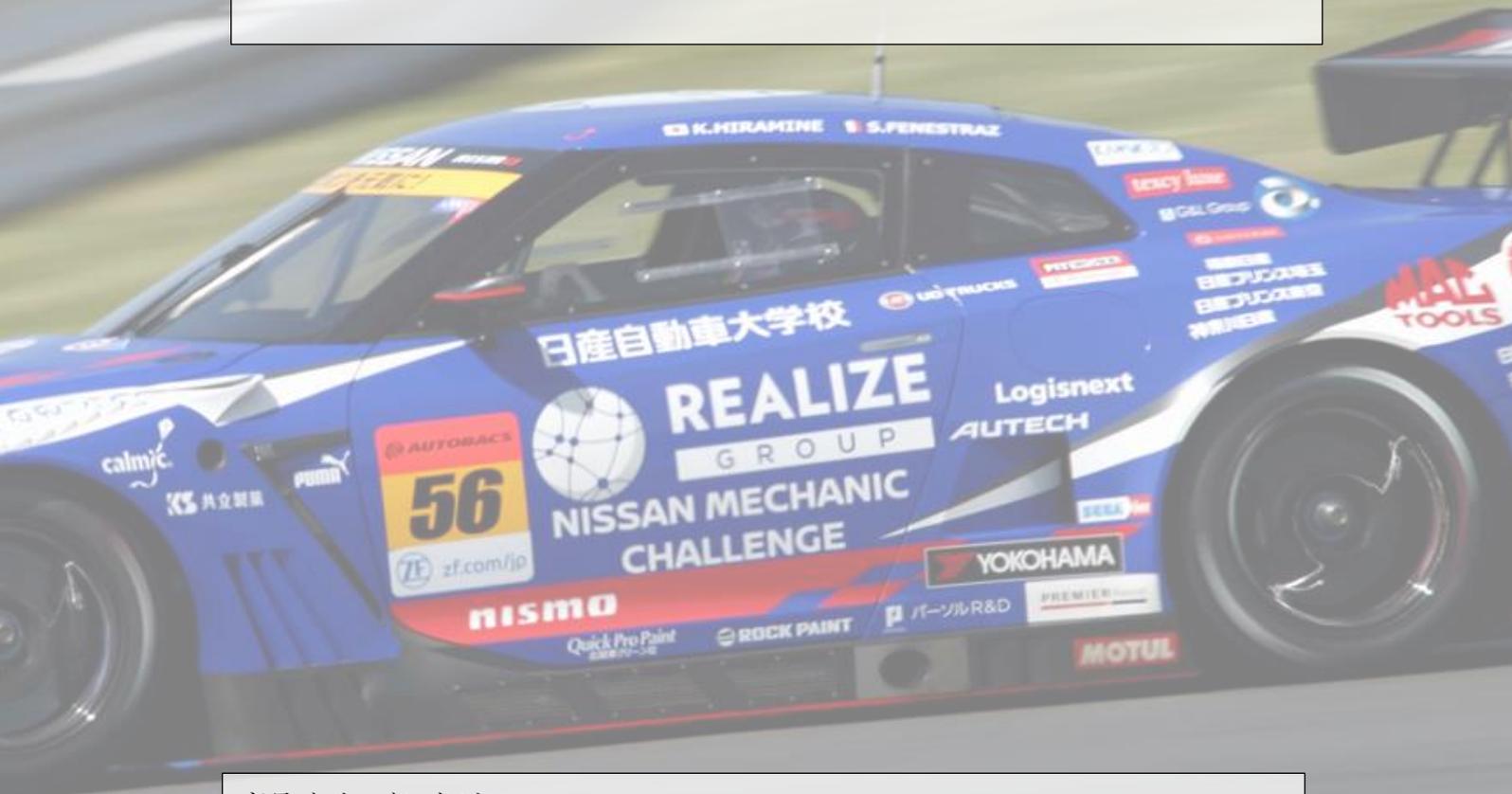


順位を守りながら GT500 には道を譲る

監督・ドライバーから学生へ

近藤監督インタビュー

- Q. 日産メカニックチャレンジで、学生に期待していることを教えてください
- A. 学生は若いのでチャレンジ精神や諦めないことが大切。GT 500は予選13位だけど諦めていない。諦めない心を学生に教えたい。そして、逆に学生の若さの勢いで、KONDO RACING 全体を刺激してくれることに期待している。
- Q. この活動を通して学生にどんな整備士になってほしいですか
- A. ディーラーのメカニックもレースのメカニックも両者とも同じプロ。どちらも同じように命を預かっているのだから、それを頭に入れて良い整備士になってほしい。



ドライバーインタビュー

- Q. TS が新たにチームに居ますが変化したところはあるですか
(平峰選手) いい意味でディーラーの先輩となる人が同じチームで戦うことで学べる
ことが多いと思う。ドライバーからしても仲間が増えたので良い。
- Q. 学生の多くが英語を喋れないですが、喋れたほうが良いですか
(サッシャ選手) もちろん喋れた方がいい。日本は英語を喋れる度合いがほかの国に
比べて低いかなと感じる。僕としては英語を学ぶことはよいことと考えて
いる。
- (平峰選手) 仕事は決して日本国内だけではない。英語を覚えることでたくさんの出会い
が増える。仕事をする上で、最後は人なので英語を話すことがとても大切。

ディーラー整備士（テクニカルスタッフ）インタビュー

Q. レースから得たことは何ですか

- A. ・焦らないこと、とにかく落ち着く。臨機応変、対応能力。
・段取り力。仕事の効率をもっともっと見直すことができる。
・お互いがお互いを理解するチーム力。
・間に合わないはありえない、迅速なスピード。



Q. 将来ディーラーで働く学生にアドバイスをお願いします。

- A. ・車に対して情熱を持ってほしい。車のことをもっと深く。ほかのメーカーの情報も持ってほしい。新しいものに対してはしっかり勉強して欲しい。
・目標をもって就職して何をしたいかを考えて欲しい。
・勉強してきてください。働き出すと勉強できる時間は少ないので、今の時間を大切に勉強してほしい。
・理不尽な要求をされることもあるが、冷静に、自分の気持ちをしっかり持って、頑張ってください。
・こういった活動の場に積極的に参加してほしい。



副統括兼一班リーダー 阿部

授業では、感じる事ができない重圧と緊張感を感じ、その中で、自分に何が出来るのかを考えて行動することを学ぶ。この学校でしか学べない事なので、積極的に参加してほしい。



ピットマネージャー 古賀

チーム全体をサポートするという新しい役職で、ドライバーだけでなくチーム全体のスケジュールや備品のチェックなど幅広い仕事がありました。

レース前のピリピリした雰囲気や、レース後の次戦に向けた切り替えの早さなど一番近くで感じる事ができました。

レースの裏、見えないところで活動する学生

学生の活動は見えないところで行われていることも少なくない。例えばテントの裏だったり、観客の居ないピット前だったり、はたまたレース後の夜だったり。裏方でレースを支える学生が居ます。



広報として、プロのカメラマンと肩を並べて、写真を撮り、プロの記者のインタビューを近くで聞いて、記事の書き方を習い、“プロ”の現場をこれでもかというほど体験できています。この活動を支えてくださるスポンサー、チーム、教員に感謝と敬意を込めてこのレポートを書きます。

広報部 松尾

写真・インタビュー
(広報)

栃木校 中村

横浜校 古川

愛知校 福島

京都校 松尾